E 44　高齢者の温熱環境に関する実態測定　第4報　測定事例3（新潟地方）

新潟大教育　五十嵐由利子

＜目的＞　高齢者の温熱環境に関する実態測定のうち、夏季が蒸暑、冬季は比較的寒冷な気候条件にある新潟県の事例について、測定結果の分析と検討を行う。

＜方法＞　新潟県内の高齢者の住宅4戸、高齢者9名（男4（65～77歳）、女5（65～85歳））を対象とした。また、比較のための青年群は女子大生4名とした。測定方法は第1報の通りであるが、冬期においては周囲気温の他に居間の室温の記録を日中のみ行った。

＜結果＞　1）夏期の周囲気温は30℃前後で、高齢者の各部皮膚温は32～36℃で、胸部の変動が小であった。睡眠時は周囲気温の影響を殆ど受けていないが、活動時は手部、足部が周囲気温の上昇に伴い上昇するという傾向であった。高齢者の皮膚温は青年群に比し、手部、足部はやや高く、胸部が低い傾向にあった。　2）冬期、居間の暖房中の室温は3戸が20℃前後、1戸が12℃以下であった。一方寝室の夜間は10℃前後であった。日中は炬燵に入り、近くにストーブを置いているため、高齢者の周囲気温は30℃を越える時もあり、足部皮膚温も40℃くらいまで上昇していた。胸部の皮膚温は夏期と大差なく、1日の変動も小さいが、手部と足部の変動は大きい。周囲気温の変動幅が20℃くらいであったが、各部皮膚温はその変動による影響を殆ど受けていなかった。手部の皮膚温は夏期より低く、足部も炬燵の中での高温時を除外すると低くなっている。一方、青年群の皮膚温は、胸部は夏期と大差なく、足部はかなり低下しているが、手部は上昇している。　3）高齢者の温冷感と室温評価の中性申告は、夏期は周囲気温が27～32℃、冬期は室温が6～18℃で、快適と評価したのは夏期27～32℃、冬期7～19℃であった。